



向こう三軒両隣

住み続けたい活気ある自治会運営を考える 自治会活性化セミナー「参加したくなる自治会を目指して」

SDGs GOAL 5 ジェンダー平等を
実現しよう
SDGs GOAL 10 人や国の不平等
をなくそう

2月3日(火)、市コミュニティホールで自治会活性化セミナーが開催され、市内各地区コミュニティ推進協議会の役員や自治会役員など約50人が参加しました。

本セミナーは、「地域づくりの課題」や「自治会役員のなり手不足」といった問題点について、様々な事例から解決方法を学ぶことを目的に県と市が共催。講師には、東京都立川市の大山自治会で15年自治会長を務めた佐藤良子氏を招き、同自治会の見守りの取り組みや高校生でも役員になれる柔軟な組織づくりなど、持続可能な自治会運営について話しました。

佐藤氏は「自治会役員は仕事や家庭では味わえない貴重な経験ができる場。住民たちが協力し合えば解決できることは多いので、役員を楽しんでやってみてほしい」と参加者へエールを送りました。



住民同士の協力の大切さについて話していました

学び深める

デジタル技術とAIの活用について考える 令和7年度陸前高田市生涯学習のつどい

SDGs GOAL 4 質の高い教育を
みんなに
SDGs GOAL 11 住み続けられる
まちづくりを

令和7年度陸前高田市生涯学習のつどいが、2月7日(土)と8日(日)の2日間、奇跡の一本松ホールを会場に開催されました。

7日には初心者向けスマホ教室やデザイン制作ツール「Canva」の活用講座が開催され、約30人が受講。8日には教育委員会表彰に続いて放送大学の講演会が開かれ、AIを活用した教育に精通する尾形英亮氏を講師に、教育現場での具体的な事例を交えながら、AIの活用法や付き合い方、共生の在り方について考えを深めました。

聴講した鈴木英行さん(一関市)は「今の子どもたちには生まれたときからAIがある。AIを使えば、すぐに答えが出るからこそ、考える過程を大事にする力が付くよう、AIの使い方、向き合い方を教えるのが大切だと感じた」と振り返っていました。



AIとともに学ぶ時代について学びを深めました

交流続く

友好の絆を深めた8日間 高田高校生がクレセントシティ市派遣事業の成果報告

SDGs GOAL 10 人や国の不平等
をなくそう
SDGs GOAL 17 パートナリシップで
目標を達成しよう

2月21日(土)、本市と友好関係にある米クレセントシティ市への派遣報告会が、奇跡の一本松ホールで行われました。

報告会には、派遣事業に参加した生徒5人のうち、遠藤優依さん(2年)、尾崎由奈さん(2年)、千葉星輝さん(2年)、大和田三華梨さん(1年)の4人が出席。学校関係者や市民ら約20人を前に、現地での貴重な体験や学びを報告しました。生徒たちは「現地の学生の積極的に発言する姿勢を見習いたい」「英語で伝えるのが難しかった。もっと勉強して現地の人にも伝わるようにしたい」と、異文化交流を通して得た気づきや、今後の成長に向けた決意を力強く語りました。



派遣での学びを報告する生徒たち

はまかだしよう

こころの健康や暮らしの安心につなげる はまかだ交流会

SDGs GOAL 3 すべての人に
健康と福祉を
SDGs GOAL 17 パートナリシップで
目標を達成しよう

市主催のはまかだ交流会が1月31日(土)、奇跡の一本松ホールで開催され、会場には市内外から約470人が訪れ、世代を超えて交流を深めました。

ステージプログラムでは、はじめに健康づくりの大切さや楽しさの普及に取り組んだ方々を称える「健康づくり表彰式」を実施。今回は5部門で1団体14個人が表彰されました。

市の陶芸講座に参加し、「はまかだ部門」で入賞した菅野湊也さん(米崎小5年)は、大人たちと『はまかだ』しながら制作した湯飲みが評価されました。菅野さんは「形を整えるのが難しかったけれど、思い描いていた通りに焼き上がった。賞をもらえてうれしい。今後も講座があれば参加して、また『はまかだ』したい」と笑顔で話していました。

会場内では、ステージイベントのほかにも、おやつを試食や販売、手作りおもちゃを作る工作ブース、紙芝居や輪投げといった昔ながらの遊びを楽しめるブースなどが設けられました。子どもから大人まで、多くの来場者が楽しみながら、健康や人と人とのつながりを育みました。



健康づくり表彰の受賞者

※はまかだ…「はまってけらいん、かだってけらいん」の略称で、「加わり、一緒に参加しませんか、お話をしましょう」という意味が込められた、本市が推進する運動のひとつ。



お茶やコーヒーの試飲を通してはまかだ



健康運動サークル「たかた☆ハッピートウェーブ!」の皆さんによる体操の披露

地域で活躍

成果や今後の展望を報告 地域おこし協力隊活動報告会

SDGs GOAL 8 働きがいも
経済成長も
SDGs GOAL 17 パートナリシップで
目標を達成しよう

本市の地域おこし協力隊による活動報告会が、1月29日(木)、市役所で行われ、3人の協力隊が地域での学びや取り組みの成果を発表しました。

市観光物産協会に勤務する菅野睦子さんは、観光情報サイト「高田旅ナビ」やインスタグラムを活用した本市の観光情報の発信などの成果を報告。特定非営利活動法人高田暮舎に勤務する石田裕夏さんは、自身の移住経験や移住コンシェルジュとしての移住者フォローの取り組み、新たな移住体験プログラムの成果などを報告しました。

また、本年度地域おこし協力隊に着任した広田町のTHE BLUE SUPの植田豊デンゼルさんは「小学生の体験会を開催し、ジュニアクラブの設立などを行った。SUPを日常のスポーツとして浸透させたい」と意気込んでいました。



活動報告の様子